

令和2年度 地方創生推進交付金に関する事業と評価

対象事業の名称	本事業における重要業績評価指標(KPI)				本事業終了後における実績値		令和2年度の取組み内容
	指標	指標値	単位	目標年月	実績値	事業効果	
デマンド交通域外運行拡充事業	指標①	デマンドタクシー年間利用者数	19,000	人	R3.3	16,805	①水戸市への域外運行を始めとした運行体制の拡充(乗降場所・運行時間の拡大、車両の増台、土曜日運行)によりデマンドタクシーの運行を実施する。 ②地域公共交通会議開催(3回) 構成:市、交通事業者、利用者代表、道路管理者、警察署、社会福祉協議会等 ③アンケート調査等により利用者の意見や状況などを分析し、更なる利便性の向上や効率的な運行体制の構築に向けた検討を行う。 ④福祉施設や商業施設、自治会等に出向き出前講座やPR周知により利用促進を図る。
	指標②	医療機関への利用者数	12,000	人	R3.3	8,080	
	指標③	日常生活において目的地までの移動に不便を感じている市民の割合	16.00	%	R3.3	18.13	
交付決定額:7,890千円 実績額:7,890千円	指標④	買物支援事業、障がい者外出支援事業、子育てタクシー運行事業の利用者数	500	人	R3.3	1,051	
事業概要	鉄道駅やバス停まで歩くことが困難な方や運転免許を返納した高齢者、小さな子どもを連れた保護者や妊娠中の方など、車を持たない、運転できない交通弱者等の移動手段の確保並びに外出機会の創出を図るため、自宅から市内全域及び水戸市中心部まで乗換えが不要で移動することができるデマンドタクシーの運行体系を拡充し、住民が適切な医療を受けるために必要な移動体制や健康で安心して安全に生活できる交通環境を整備する。 また、水戸市内の乗降場所である水戸駅と水戸京成百貨店は、鉄道やバス路線の交通結節点となっており、水戸市内の医療機関(総合病院・小児科・産婦人科病院等)や商業施設(百貨店・専門店等)などへの移動を容易にすることから、通院+買物、通院+趣味・娯楽など、外出支援策として、健康増進やいきがいつくり、子育て支援などに寄与するものとなるため、今後は更なる事業の周知・啓発及び医療・福祉機関や商業施設、地域住民・団体等と連携できる取組みやマッチング事業等の検討を行うことにより、利便性や乗合効率の向上並びに利用者数の拡大を図る。						

※事業効果・・・ A:「非常に効果的であった」(目標値以上)、 B:「相当程度効果があった」(目標値の7割程度)、 C:「効果があった」(目標値以下(改善あり)) D:「効果がなかった」(目標値以下(改善なし・悪化))

有識者会議委員の評価		実績値を踏まえた令和2年度以降事業の今後について	
事業の評価	有識者からの意見	今後の方針	今後の方針
総合戦略のKPI達成に有効であった	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄道やバス路線などを補完し、交通弱者等の移動手段を確保する上で重要であり、地域住民のニーズに応じた運行エリアの拡大は、利便性を高める効果的な取組みであると評価できる。 ・ウィズコロナ・アフターコロナにおける移動需要の変化を見据え、感染症対策に十分留意しながら、引き続き利便性の向上を図る取組みを進めていただきたい。 ・とても重要な事業で、高齢化に伴い交通弱者の増加が見込まれニーズも引き続き拡大すると思う。市民の生活圏を考慮して市外も含んだ運行は、非常に良いと思う。 ・電話以外での予約や利用券をスマホでも購入・利用できるようにする、申請もオンラインでできるようになると、利用者の幅も広がるのではないかと。 	更に発展させる	<ul style="list-style-type: none"> ・地域公共交通として、デマンドタクシーの利用者は更なる増加が期待されることから、水戸市以外の他市町村への乗入れや産婦人科等を乗降場所に追加するなど、まずは市民から要望が多い拡充策について具体的な検討を進めるとともに、福祉施設や商業施設、地域団体等との連携により地域の機運を高め、官民一体となって事業を展開していく必要がある。 ・事業3年目に予定していた、「運行配車システム」の導入については、運行事業者並びにシステム事業者との調整等が未だ整っていないため、まずは市民から要望が多い拡充策(ひたちなか市への乗入れなど)の検討を進めることとし、2021年度の導入を一旦見送るが、引き続き事業者等と協議を行いながらシステム導入に向けた調整を進めていく。

対象事業の名称	本事業における重要業績評価指標 (KPI)				本事業終了後ににおける実績値		令和2年度の取組み内容
	指標	指標値	単位	目標年月	実績値	事業効果	
静峰ふるさと公園活性化事業	指標①	静峰ふるさと公園に関する関係人口	40	人	R3.3	56	①公園活用方針検討に係るヒアリング等の実施 ・静峰ふるさと公園魅力向上検討委員会の開催(1回) ・地元団体、地域おこし協力隊へのヒアリング ・プレイヤーとなりうる団体、個人との面談 ②公園活用モデルとなるイベントの開催 ・「リアル宝探し」、「ふたご座流星群観覧会」等、公園の施設、設備を活かしたイベントの開催 ・「静峰ナイトシネマ」、「あおぞらクローゼット」等、地元団体、地域おこし協力隊と連携したイベントの開催 ③需要のある施設、設備の整備に向けた設計 ・バーベキュー施設の設計
	指標②	静峰ふるさと公園をイベント等で活用した民間団体数	189	団体	R3.3	7	
交付決定額:1,043千円 実績額:1,021千円	指標③	静峰ふるさと公園でのイベント来園者数	46,000	人	R3.3	3,157	
事業概要	民間団体、企業、地域おこし協力隊、県内大学等と官民連携でイベント等モデル事業を実施し、静峰ふるさと公園の活用の可能性を実証及び対外的にPRすることにより、その後の民間団体等による公園活用の促進と担い手の育成につなげる。 静峰ふるさと公園魅力向上検討委員会を開催し、地域のニーズを聴取するとともに地域住民も参画した取組みを行うことで、郷土愛を醸成し公園を中心とした賑わいづくりを我がこととして捉えてもらい来園のきっかけにすることで来園機会(頻度、回数、リピーター)を増やし、地域活性化と事業の継続を図る。						C

※事業効果・・・ A:「非常に効果的であった」(目標値以上)、 B:「相当程度効果があった」(目標値の7割程度)、 C:「効果があった」(目標値以下(改善あり))、 D:「効果がなかった」(目標値以下(改善なし・悪化))

有識者会議委員の評価		実績値を踏まえた令和2年度以降事業の今後について	
事業の評価	有識者からの意見	今後の方針	今後の方針
KPI未達成だが取組み内容は有効であった。	<ul style="list-style-type: none"> ・屋外であることから1回の参加人数を制限しつつ、積極的に公園の活用に取り組むことが望ましい。 ・地域おこし協力隊と連携することで、行政職員の枠を超えた発想での公園の活用可能性が出てくることから、さらに地域おこし協力隊と事業の企画・実施にあたり協力を進めてほしい。 ・公園の魅力を加わせていくイベント開催は良い。ふたご座流星群観覧会をはじめ、自然を楽しんでいただけるイベント、あおぞらクローゼットなど、子育て世代が公園に来るきっかけ作りには最適だと思う。 ・市内幼、保、小学生の利用、中学校、高校の部活動の生徒の活用を四季折々に計画できないか。 ・すでに実績のあるイベントや好評なイベントについて、引き続き実施と改善点の検証を繰り返し、地元の方に愛されるイベントにしていくことが静峰ふるさと公園の活性化につながると考える。 	更に発展させる	KPI①については、目標値を上回ったものの、KPI②③は新型コロナウイルスの影響を受け、目標値を大きく下回った。 当面、新型コロナウイルス対策を徹底し、大規模なイベント開催などに伴う三密を回避するため、公園の面積を広く利用するものや、事前予約制、開催期間の長いイベントの開催にシフトする。 イベント開催の回数を増やし、1回あたりの参加者を減らすことで、来園者の増加と分散化を図る。 プレイヤーとなりうる団体、個人との面談を継続し、公園活用機会の実現に向けてアプローチを行う。 その他、施設の魅力向上に係るハード整備の施工を行う。 【開催を予定するイベント】 ノルディックウォーキング講習会、リアル宝探し、ふたご座流星群観覧会、ハード整備に係るイベント(BBQ PRイベント、イルミネーションイベント)、その他地元団体、地域おこし協力隊との連携イベント等